

ホタルだより

ホタルプロジェクトの活動を、その時期に応じて紹介させていただきます

創刊号 2023.04

vol.02

発刊 三国木部ホタル研究所

三国木部まちづくり協議会



最強寒波に耐えられず…

幼虫飼育大失敗



ビオトープ公園再生 ホタルプロジェクトの経過報告



三国木部ホタル研究所
所長 森岡 正己

ホタルの幼虫飼育に失敗し、幼虫が全滅

「ホタルだより vol.1」でご報告して以来、令和4年11月～令和5年3月の間に実施した活動は本誌 vol.2 にお知らせするとおりです。

特に、三国南小学校6年生の児童（卒業生）と共に取組んだ諸活動は大変有意義な活動であったと思います。滋賀県守山市の「ほたるの森資料館」へ校外学習で行ったり、学校に設置したホタルの幼虫飼育装置での幼虫飼育など非常に熱心に取組んでいただきました。

しかし、大事件です。11月に約1.5cmの大きさとなって順調に成長していた幼虫が、今年1月下旬に本県を襲った-40℃という大寒波により、水温の低さに耐えきれず全部死んでしまいました。飼育装置の中の幼虫だけではなくエサとして入っていたカワニナまでもが犠牲となりました。小学校へ設置していた装置だけではなく、三国木部コミュニティセンターでも飼育していた装置も屋外に設置してあったため全体が凍ってしまい全滅してしまいました。

今回の失敗をもとに次のシーズンこそは温度、水温を適切に管理し幼虫から成虫へと成長させたいと思っております。

地域のみなさまにおかれましてもホタルの飼育カワニナの飼育に関してご意見等がありましたら、是非ご教示下さいますようご連絡をお待ちしております。

大寒波後の幼虫育成状況確認の様子

大寒波後、NPO法人 日本ホタル再生ねっと理事長の草桶秀夫氏をお招きし幼虫育成状況確認及び大寒波対策についてご指導をいただきました。幼虫育成状況確認は飼育装置を解体し1つ1つの箱の中身を確認していきます。



NPO法人 日本ホタル再生ねっと理事長 草桶秀夫氏



発見された幼虫の死がい

令和4年11月4日(金) 坂井市内ビオトープ視察

11月10日(木) ホタルの幼虫確認

11月22日(日) 滋賀県 守山市ほたるの森資料館視察研修

12月14日(水) 三国南小学校へホタル飼育装置の搬入

11/4

坂井市内視察

ビオトープ4カ所を訪問し
施設の維持管理等を学ぶ

HPT11人が参加



11/22

守山市ほたるの森資料館視察研修

先進地にて人工飼育方法や
ホタルに適した環境を見学

21人が参加



12/14

三国南小学校へ ホタル飼育装置搬入

6年生のホタル学習に使用

HPT5人が参加



1月▶2月

令和5年 1月11日(火)

三国南小学校へ飼育装置に関する出前授業(森岡)

2月22日(水)

三国南小学校 ほたるの森資料館へ校外学習

1/11

三国南小学校への 出前授業

6年生を対象に飼育装置内の
観察をする出前授業を開催

29人が参加



三国南小学校 校外学習

守山市ほたるの森資料館
周辺のホタル生息環境見
学及び人工ふ化した成虫
の観察を実施

三国南小学校 31名
HPTリーダーズ 13名が参加

2/22



南小卒業生 1年間のホタル学習感想



ほたるが豊かに住むためには

浅田 太陽

ほたるは、社会が進化するごとに住む環境が少なくなっています。

人間が、これからどんどん社会を進化させることによって、自然のきれいさや水などが汚されています。そうすると、ほたるは生きられませぬ。

だから、ぼくたちで少しでも生き物の住みやすい環境にしたいと、この学習を通して思いました。

昔のほたる

伊藤 継祥

ぼくは、ビオトープを自然であふれるきれいな場所にしたいです。

昔は、家の中にまでほたるが入ってくるほど環境がよかったのに、今では、ほたるが全然見られません。

ぼくは、ビオトープを昔のようにほたるがいっぱいいるような場所にしていけるとともに、環境に気を付けていきたいです。

ほたるの生き方

平林 春翔

ぼくは、2月22日にほたるの森資料館に行きました。そこで見たのはほたるの幼虫がさなぎになる姿です。凄いなと思いました。ぼくはほたるが飛んでいる姿を見たことはありません。このほたるプロジェクトが成功して、ほたるが飛んでいるところを見に行きたいです。

ほたるの生きる場所

古木 映名

きれいに光るほたる。私はそんなほたるが住めるところを作りたいと思い、ほたるプロジェクトを行ってきました。

そう思ったわけは、ほたるの森資料館はとてもきれいなところだったからです。ほたるはきれいなところでしか生きられません。なので、ビオトープがきれいなところになり、私たちが育てたほたるがきれいに光るところがみられるのを祈っています。

私たちのほたる

飯塚 心彩

私は、この学習を通してほたるを育てることは、ものすごく大変なことだと思いました。私は、このビオトープをほたるできれいな場所にしていきたいと思います。理由は、滋賀県に行ってほたるのことを学びいろいろな大変さを学んだからです。

これからも、ほたるのことを詳しく学習し、頑張っけて育て、ビオトープにほたるを元気づく飛ばせたいです。

私が学んだこと

勝嶋 花音

ほたるが住むまちにするために必要なのは、ほたるが住める環境を私達で作っていくことだと一年間で学びました。

そう感じたきっかけは、ほたるの森資料館へ行ったとき、資料館付近ではほたるが住める環境を市の方々に協力してもらい作っていると教えていただいたことです。

私は、みんなが協力していくことでほたるの住む場所ができると感じました。私もほたるの住む環境づくりに協力していきたいです。

大切にしたいこと

有馬 開成

ほたるや地球を大切にしたい。一年間の総合的な学習でこう思った。僕をこのように思わせた学習はたくさんあるが、その中の一つ地球温暖化の話が強く印象に残っている。

この学習を通して、環境について深く学ぶことができた。ほたると同時に温暖化対策をしなければと感じた。

僕が大人になっても自然環境に対する関心を持ち続け、ほたるや地球をずっと大切にしていきたい。僕はそう思う。

すてきなビオトープ

千利濱 慶人

僕は、この学習を通してビオトープをみんなに愛されるすてきな場所にしたいです。

なぜなら、今までいろいろなことをこのビオトープがすてきな場所になるために学んできたからです。その学習を生かし、自まんの場所にしたいです。

僕は、このビオトープをみんなの思い出になるすてきな場所にしたいです。

ほたるの飼育

西村 望紫

私は、ほたるの飼育は簡単だと思っていました。しかし、ほたるの飼育をしている人に聞いたところ、水道水ではなく山からくんできた水をほたるの飼育に使っていることが分かりました。特に心に残ったことは、ほたるの飼育の大変さです。ほたるの飼育は一生懸命頑張らなければならないとほたるがいなくなってしまうと感じました。

なので、これからも、ほたるの飼育に協力していきたいです。

ほたるを増やそう

小林 和輝

ほたるを増やして観光スポットを作りたい。それがこの学習を通して思ったことです。ぼくは、ビオトープをほたるがたくさんいる観光スポットにしたいと思います。

そう思ったきっかけは、地元三国に新たな観光スポットを作り、いろいろな人に来てほしいと思ったからです。

ぼくは、これからもほたるを増やし、自まんの地元のしていきたいです。

自慢のスポットへ

河戸 快穂

私は、ほたるの学習で、ほたるの住める場所が少なくなっていることを知りました。しかし、僕たちのビオトープにほたるを生息させたいです。そう思った理由があります。

それは、滋賀県のほたるの森資料館がとても素敵だったからです。

なので、ビオトープにたくさんのほたるを住ませて「一生に一回は行きたいスポット」にしていきたいです。

ほたるってすごい

竹内 玲奈

私は、この学習を通してほたるってすごいと感じました。初めてのほたるの勉強がとてもわくわくしました。

私は、ほたるが、学校に来たときとてもどきどきしていたけれどほたるを見にいくと、どきどきがわくわくに変わりました。

これからは、今まで学んでできたこと以上に学びたいと思いました。

学習を生かし自慢のスポットにしたい

大連 杏

私は、ほたる学習を通して、学習したことを生かしビオトープを自慢のスポットにしていきたいと感じました。

そのことを特に感じたことは、校外学習です。ほたるの森資料館で、実際にほたるを見たり、ほたるの一生を学んだりしました。

ほたるに関する知識や経験を生かし、自慢のスポットにしたいと感じました。これから、ほたると人々がたくさん集まるいいの場所にしていきたいです。

自慢のスポットづくり

齊藤 孝人

僕は、ほたる学習を通して、「自慢のスポットをつくりたい」と思いました。

そう思ったきっかけは、森岡さんからホテルやビオトープの話聞いたことです。

最初はあまり関心がなかったけれど、話を聞くうちに面白いと思うようになりました。

僕は森岡さんの話などを通して「自慢のスポットを作りたい」と思いました。自慢のスポットを作るため、これからも頑張っていこうと思います。

ほたるが住みやすい環境へ

南 乃乃花

私はこのビオトープを、ほたるたちが住みやすい環境にしていきたいです。そう思ったきっかけは、総合の時間でほたるのことについて調べたことでした。ほたるは、きれいな水が流れているところや、川の周辺が明るすぎないところなどに住んでいることを知りました。だから私は、ビオトープをほたるが住みやすい環境にしたいです。これからも、ほたるが住みやすいところをつくれるように協力していきたいです。



ほたるの飼育

西川 彩香

私は、この学習を通してほたるの飼育は、とても難しいと学びました。川にほたるを放流するだけでなく、川をきれいにしたり光を出来るだけさえぎったりしなければなりません。

これらの準備には、たくさんのお金が必要です。ほたるを飼育することは大変だと思いました。

これからは、自然を大切に、ほたるを生息させていきたいです。



難しいと思ったほたるプロジェクト

茶谷 海琴

私はほたるプロジェクトの話聞いて最初は難しいと思った。でもやっていくうちに、ほたるをビオトープで長く生きさせたいという気持ちに変わった。

一年間の活動を通して一番そう思ったのは、地球温暖化の話聞いた時だ。話を聞いているうちにほたると関係していることがよく分かった。

最初は難しいと思ったプロジェクト。しかし、今では、完成が楽しみだ。

私たちの自慢のホタル

本堂 七穂

私はこのホタルプロジェクトに参加して、これからもホタルを大切に、ビオトープを自慢のスポットにしていきたいと思った。

ホタルのことをよく知るために、ホタルの専門家の方に発光実験を行っていただいた。その光は、私が今まで目にしたことのない、まるで星のような輝きだった。

光輝きれいなホタルを見て、私はホタルをこれからも守り大切にしていきたいと思った。

ビオトープを自慢の場所にしたい

牧野 翼

自分たちでビオトープを自慢の場所にしたい。僕がほたる学習をして思ったことです。

自慢のビオトープを作るために、ほたるの飼育を学校でしています。森岡さんがわざわざ山から水をくんでくださり、その水を、水槽に入れてあります。なので、自分たちが育てたほたるが飛び交う自慢の場所をつくりたいと思いました。

ほたるの一生

室 惺弥

ほたるの一生は、とても短いことを学びました。僕は、ビオトープをたくさんほたるがいて、きれいな所にしたいです。

理由は、ほたるを家族と一緒に見たいと思うからです。また、たくさんほたるが飛んでいる姿を見たいと思います。

僕はこれからも時間がある時に、ほたるのことについて調べていきたいです。

三国でもほたるを

則貞 元輝

ぼくが一年間ほたるについて勉強して一番感じていることは、ほたるを育てるのは本当に難しいということです。今、学校でもほたるを育てていますが、きれいな川の水やエサになるカワナなどが必要です。また、夜に暗いことも大切だと聞きました。ほたるが住みやすい場所を作っていくことは、とても大変だなと感じています。どうすれば三国でもほたるが見られようになるか、ぼくももっと考えていきたいです。

ほたるの姿が見えない

南 いろは

学習を通して感じたことは、ほたるの住める場所が少なくなっているということです。

私はビオトープをほたるが住みやすい場所にしたいです。そう思ったきっかけは、地球温暖化が原因で、ほたるがなかなか見られないからです。

最近、ほたるの住める場所が少なくなっています。私はこれからも、自然を大切にしていきたいです。

ほたるが住みやすい環境を作る大変さ

角谷 眞生

私は、この学習を通してほたるが住みやすい環境を作る大変さを学びました。

それは、地球温暖化に関することを専門家の先生から学んだときに感じました。地球はCO₂で暖かくなり、生き物が住みにくくなっているそうです。ほたるは、涼しい所にいるので今の地球で育てるのは、難しいと習いました。

僕はこれから地球を大事にし地球温暖化を防ぎ、ほたるが住みやすい環境を作りたいです。

三国の自慢のスポット

野尻 直宏

三国の名スポット、そう呼ばれる日がきつとくる。そのためにいろいろ学んだ。

地域の自慢のスポットを作るためにほたるや発光実験、SDGSなどの勉強をし、発信していった。そして、飼育もした。大変でも飛ぶ姿が見たい。そう思いながら飼育している。

ぼくらが行ってきたプロジェクト。もちろん、簡単ではない。けれど、大切に飼育して、三国の名スポットとして、ほたるが飛んでいる姿を見たい。

滋賀県でのいろいろな思い出

大綱 結衣

私は、滋賀県でほたるについていろいろ教えてもらったときに、私達のビオトープを滋賀県のほたるの森資料館のようにしたいと思いました。そして、ほたるを増やし自然がとてもきれいなところになりたいと思いました。

自然豊かで心が落ちつくビオトープにしたいと思います。

三国の自慢のスポットにしたい

藤岡 祐貴

ビオトープを自慢のスポットにしたい。これが一年間の取り組みの中のぼくの気持ちだ。

そう思ったきっかけは、ほたるの飼育をしたことだ。飼育は気を付けなければいけないことが多く、大変だった。けれど飼育をしたことでほたるのことをよく知ることができた。

僕は、このほたるの学習を通して、ビオトープをほたるの森資料館のようなすてきな場所にしたいと思った。

私たちの自慢のスポット

木田 朱音

私は、この学習を通して、ほたるを育てる大変さ、自慢のスポットをつくる難しさが分かりました。私は、ビオトープをたくさんの人に見てもらいたいです。

なぜなら、三国の新しいスポットにしていきたいからです。

これからもホタルを大事にしていきたいです。

三国にも自慢のスポットを

長谷川 歩

僕は、このほたる学習を通してビオトープを三国の自慢のスポットにしてほしいと思った。

なぜそう考えたかという、ほたる学習でいろいろな人にお世話になったからだ。たくさんの人たちから学んだことをビオトープを変えることにつなげていきたいと思う。

僕は、三国に自慢のスポットがほしい。たくさんの方の協力で自慢のスポットができることを願っている。

ほたるの飼育って難しい

前田 海煌

ぼくは、この学習でほたるの飼育の難しさを学びました。

そう思ったきっかけは、三国木部コミュニティセンターで飼っているほたるが、絶滅してしまったということを聞いたからです。

これからも環境を大切にしていき、ビオトープが完成したら友達と一緒にいきたいです。



ホタルプロジェクト
サポーターズ募集中！
詳しくは三国木部コミセンまで



三国木部まちづくり協議会 / 三国木部ホタル研究所
坂井市三国町楽円 30-1 三国木部コミュニティセンター内

TEL & FAX 0776 - 81 - 2778

プロジェクトの
様子を発信中！



[mikunikibe.htm](https://www.instagram.com/mikunikibe.htm)